古堤街道

大阪と奈良をつなぐ

石切参道上道　古堤街道

いま

むかし

1 住道駅

2 住吉神社

3 住道新橋

4 住道本通商店街

5 御供田時計台

6 旧恩智川跡

住道駅大橋
［昭和54/1979年］
（株式会社まちんぐ提供）

住吉神社の夏祭り
［昭和31/1956年］
（菱井明氏提供）

三箇大橋付近
［昭和10/1935年頃］
（菱井明氏提供）

住道商店街
［昭和33/1958年］
（株式会社まちんぐ提供）

鐘紡住道工場
［年代不詳］
（株式会社まちんぐ提供）

旧恩智川の堤
［昭和42/1967年］
（国立民族学博物館提供）

7 御供田公園土俵

8 大クスの幹（泉公園）

9 三反物の樋

10 平野屋新田会所跡

11 坐摩神社

12 中垣内遺跡

13 東高野街道道標

相撲（『河内名所図会』より）
（国立国会図書館デジタルコレクション）

平野屋新田会所大クス
［平成30/2018年頃］

木製樋門絵図
［文化10/1813年］
（平野屋新田会所文書）

平野屋新田会所千石蔵
［昭和55/1980年頃］

地車宮入りの図絵馬
（坐摩神社所蔵）

中垣内遺跡遺構
（大東市教育委員会編『中垣内遺跡』2006）

元禄国絵図河内国（東高野街道付近）
［元禄10/1697年］
（国立公文書館デジタルアーカイブ）

恩智川にまつわる「小豆洗い」民話

かつての恩智川は八幡神社のすぐそばを流れ、水流をせき止めたり調節するための水出口のしきりがありました。夜に通ると小豆を洗うような音が聞こえていたそうです。

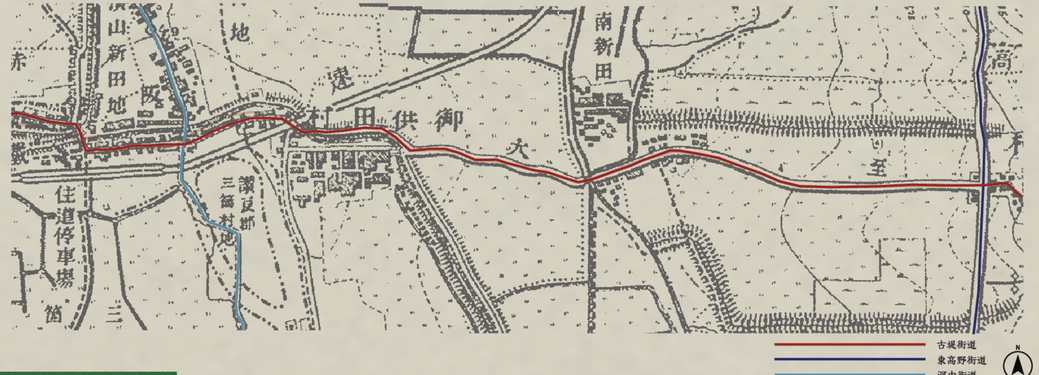
鍋屋川にあった「ひなら」

鍋屋川は、人工的に掘られた水路でした。昔は各家の前に川へ下りられる石段があり、そこで洗い物や舟の乗り降りをしていました。この石段を「ひなら」とも呼んでいたそうです。

大東市地図

2万分の1仮製地形図「生駒山」

（明治18年測量・明治20年製版・明治32年印刷　大日本帝国陸地測量部）



1 住道駅

寝屋川と恩智川が合流する地。江戸時代の頃から、大東市域と大阪を結ぶ寝屋川舟運の中心地として栄えました。

2 住吉神社

「住吉さん」と呼ばれる住吉神社は航海の神様である住吉大社から勧請されたといわれています。祭日は本社と同じ7月31日、8月1日で、夏の夕涼みを兼ねた縁日は大変な賑わいでした。

3 住道新橋

日本で数少ない油圧シリンダーによる押上方式の製道橋です。大雨で川があふれそうになると、橋が上がり、水門が閉じるように設計されています。

4 住道本通り商店街 古堤街道道標

この商店街は、昭和50年（1975）頃までは東西に800mほど伸び、100以上の店舗が並ぶ繁華街でした。枚方と八尾を結ぶ河内街道と古堤街道が交わる場所には、明治時代に建てられた道標があります。

角ノ堂（すみのどうめいひ）銘碑

江戸時代末期に「角ノ堂」（住道の古地名）の来安という人物が寄進した碑が、御供田の安楽寺の前に立っています。

段蔵

洪水に備えるため、階段状の石垣の上に土蔵が建てられ大切なものを守る目的を担っていました。

農民感謝碑

明治18年（1885）の水害の際に平野屋新田会所で行われた救済活動に感謝するため、明治25年（1892）に地元住民が建てた記念碑が残っています。

5 御供田時計台

昭和50年（1975）まで住道駅の南側に鐘紡住道工場があり、約3000人の従業員が働いていました。御供田2丁目の花壇には、鐘紡にちなんで水をよしる形をした時計台が設置されています。

6 旧恩智川跡

昭和40年代まで恩智川が流れていた場所には遊歩道が整備されました。普段は市民の憩いの場として利用され、降雨時には雨水貯留施設として活用されています。

7 御供田公園

公園の中央には平成6年（1994）に開かれた立浜な土俵があります。大東市周辺は江戸時代から相撲がさかんな地域でした。

8 大クスの幹

令和3年（2021）まで平野屋新田会所跡の北側にあった大クスの幹が泉公園に保存されています。令和7年（2025）に休憩施設が整備される予定です。

9 三反物（さんたんもん）の樋（ひ）

江戸時代末期に木製の樋門が石製につくり変えられました。12号水路上には弘化2年（1845）につくられた現存最古の樋門が残っています。

10 平野屋新田会所跡

会所跡には、千石蔵・道具蔵・御着場・周濠の遺構が保存されています。令和8年（2026）に史跡公園として整備される予定です。

11 坐摩（ざま）神社

坐摩神社は大坂の坐摩（いかすり）神社から平野屋新田会所の屋敷地内に勧請された神社です。10月の祭礼では、平野屋、谷川、南新田・元町の3基のだんじりが宮入りします。

13 東高野街道

京都と高野山を結ぶ東高野街道と古堤街道が交わる場所には、江戸時代につくられた道標が立っています。

12 中垣内遺跡

昭和34年（1959）、関西電力東大阪変電所の建設工事現場で行われた発掘調査で土器や竪穴住居の跡などが見つかり、弥生時代前期の集落が存在したことがわかりました。